

はじめに

食糧、エネルギー、環境から金融・貿易問題まで、私たちの生活のすべてが海外と結びついている今日、異文化を理解し互いに協力し合うことのできる子どもたちを育てることは、日本のみならず国際社会の平和と発展のためにますます重要になっています。

JICAは、学校現場において子どもたちの国際理解、特に開発途上国への理解を深めるために、先生方の国際理解教育を支援しています。その一環として、小中高等学校の先生方を開発途上国へ派遣して、国際協力や学校教育を体験していただく教師海外研修プログラムを実施しています。

2009年は7人の先生方がネパールを訪問し、生徒や学校関係者、JICAボランティアたちと触れ合い、交流していただきました。

キラキラ輝く目、明るい笑顔、貧しくても一生懸命に学ぶネパールの小学生の姿に感動し、理想の教育を目指し熱心に取組んでいる若い先生に共感し、ネパールで生き生きと活躍している協力隊員やシニア・ボランティアの姿に感銘を受けた、との報告をいただいています。

帰国後には先生方がネパールで得た感動を「生きた授業」で児童・生徒に伝え、子どもたちに、遠く離れた国の人々に思いをはせる心の広さを育てていただきました。

本報告書は先生方の現地報告と帰国後の授業実践報告をとりまとめたものです。ご覧いただいた関係者からは、「内容がわかりやすく、参考になる。」との声をいただいております。

本報告書が現場で国際理解教育を実践する先生方の参考になれば幸いです。

なおJICA四国では、国際理解教育を推進する学校と先生方を支援するために、国際協力出前講座、国際協力エッセイコンテスト、国際協力実体験プログラム「それ行け！高校生」なども行なっています。是非ご活用ください。

末筆ながら、本報告書作成にあたり、参加いただいた先生方を始め、多くの方々にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。

平成22年1月6日

独立行政法人国際協力機構四国支部
支部長 新納 宏